

地理情報活用 WG 報告

■開催日時：2025 年 11 月 17 日（月）15:00～17:00

■開催方法：対面

■開催場所：埼玉大学 シアター教室

■主催：地域レジリエント社会研究コンソーシアム

埼玉大学（社会変革研究センター・レジリエント社会研究部門）

■共催 埼玉大学産学官連携協議会 防災 DX 研究会

■参加者：17 名

2025 年 11 月 17 日に、地域レジリエント社会研究コンソーシアムの主催で、第 1 回地理情報活用ワーキンググループミーティングを開催しました。

地域レジリエント社会研究コンソーシアム 防災 DX・インフラ保全部会長の齊藤正人教授の開会の挨拶の後、ワーキンググループ主査 堤田成政准教授より本 WG の趣旨説明と大学による地理情報を活用した防災 DX 研究について話題提供しました。合成開口レーダーを用いた洪水把握技術の紹介や、洪水ハザードマップと人流データ・3次元建物データを活用した動的リスク評価に関する研究を紹介しました。また、本 WG を通じて SAITAMA モデルの構築を目指す趣旨を説明しました。

その後、ワーキングに参加する 7 団体それぞれより、活動紹介を行いました。主に、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社からはリアルタイム被害予測ウェブサイト cmap の紹介、埼玉県危機管理防災部災害対策課からは自治体が有する課題や災害オペレーション支援システムに関する話題提供、MS&AD インターリスク総研株式会社からは衛星データを含めた災害時のデータ利活用など、埼玉高速鉄道株式会社からは災害時の事業継続判断における情報利用と課題、株式会社ゼンリンからは 3 次元地理情報データの展開、一般社団法人協働型災害訓練からは災害時におけるボランティアなど多様なアクター連携と地理情報活用の課題、国土交通省からは社会資本整備重点計画の見直しや地

域インフラ群再生戦略マネジメント、民間提案型官民連携モデリング事業の紹介、をいただきました。

それぞれの活動を踏まえた上で、総合討論を実施し、災害時の地理情報の利活用としてリアルタイム性の重要性を確認しました。ミーティング後には、意見交換会を開催し、今後の進め方など、幅広い議論を深めることができました。

◆地域レジリエント社会研究コンソーシアム「地理情報活用ワーキング」とはー

・地理情報の防災・減災への活用をテーマとし、民間事業者と地方自治体の連携を促進することを目的としたワーキンググループです。